

## アスファルト混合物報告書

年 月 日

様

製造会社

所在地

鳥取市古海1008-2

工場名

鳥取アスコン株式会社

配合の設計条件				
混合物の種別	骨材の最大寸法	基準密度	混合温度	
再生アスファルト安定処理	20(mm)	2.357(g/cm <sup>3</sup> )	160(°C)	
空隙率	飽和度	安定度	フロー値	
7.5(%)	54.8(%)	6.96(kN)	28(1/100cm)	
D S 値				
使用材料および配合表				
使用材料名	産地名	生産者名	配合率(%)	備考
再生アスファルト(60~80)	岡山県倉敷市水島	E N E O S (株)	※ 4.0	
石粉	岡山県新見市足立	足立石灰工業(株)		
碎石 5号	岡山県久米郡久米南町	坂田碎石工業(株)	18.7	
碎石 6号			15.3	
碎石 7号			6.3	
砕砂			1.9	
粗砂	佐賀県唐津市	住若海運(株)	3.9	
細砂	鳥取市伏野	(有)仁徳砂利	2.6	
再生骨材		鳥取アスコン(株)	49.80	
再生用添加剤		E N E O S (株)	0.20	RDEX
※再生アスファルト(60~80)配合率の計算 旧As=2.47(%) 再生用添加剤=0.20(%) 新As(60~80)=1.3(%) 再生アスファルト(60~80)配合率=2.47+0.20+1.3=4.0(%)				

# アスファルト混合物配合設計報告書

混合物： 再生アスファルト安定処理

2024年 2月

鳥取アスコン 株式会社

# アスファルト混合物配合設計総括表

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

## 1. 使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産地	材質
砕石5号	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
砕石6号	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
再生骨材	鳥取アスコン株式会社	鳥取県鳥取市古海	再生骨材
砕石7号	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
砕砂	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
粗砂	住若海運株式会社	佐賀県唐津市	天然砂
細砂	有限会社仁徳砂利	鳥取市伏野	天然砂
StAs(60-80)	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	STAs60-80
RDEX	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	再生用添加剤

## 2. 使用骨材の配合割合

材料	砕石5号	砕石6号	再生骨材	砕石7号	砕砂	粗砂	細砂					計
配合割合%	19.5	15.9	49.3	6.6	2.0	4.0	2.7					100.0

## 3. 合成粒度

ふるい目	53mm	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600μm	300	150	75	
通過質量百分率%		100.0	100.0	100.0	99.8	83.0		52.0	35.0		20.8	13.8	6.4	4.7	
粒度範囲	上限		100			100			60						10
	下限		95			50			20						0

## 4. 設計アスファルト量の決定

試験項目	最適AS量 (%)	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	理論密度 (g/cm <sup>3</sup> )	空隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度 (kN)	フロー (1/100cm)	残留安定度 (%)
試験値	4.0	2.357	2.548	7.5	54.8	6.96	28	86.4
基準値	上限	—	—	12	—	—	40	—
	下限	—	—	3	—	3.43以上	10	75.0以上

# 骨材試験成績表

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

## ふるい分け試験

	ふるい目の開き	碎石5号	碎石6号	再生骨材	碎石7号	砕砂	粗砂	細砂		
通過質量百分率%	53 mm									
	37.5									
	31.5									
	26.5	100.0								
	19	99.1	100.0							
	13.2	13.9	98.8	100.0	100.0		100.0			
	9.5									
	4.75		6.5	73.2	94.3	100.0	99.2			
	2.36			53.1	12.1	92.1	87.6	100.0		
	1.18									
	600 μm			32.4		37.5	31.5	98.9		
	300			22.3		20.4	12.2	70.4		
	150			12.1		12.0	3.5	4.1		
	75			9.1		8.8	1.0	1.1		

## 性状試験

試験項目		碎石5号	碎石6号	再生骨材	碎石7号	砕砂	粗砂	細砂		
密度	表乾	2.692	2.688	—	2.676	2.647	2.592	2.585		
	かさ	2.675	2.669	—	2.651	2.602	2.556	2.535		
	見掛	2.720	2.721	—	2.718	2.724	2.652	2.668		
吸水率 / 水分量 %		0.62	0.71	—	0.93	1.72	1.43	1.96		
すりへり減量 %		—	11.9	—	—	—	—	—		
安定性 %		0.5	0.8	—	1.4	1.5	5.3	1.5		
微粒分量試験 %		—	—	1.8	—	—	—	—		
軟石含有量 %		0.4	0.6	—	—	—	—	—		
偏平細長石片 %		1.1	1.0	—	—	—	—	—		
単位容積質量		1.564	1.562	—	1.502	1.752	1.665	1.547		
粘土塊量 %		0.02	0.03	—	—	—	—	—		
最大密度		—	—	2.514	—	—	—	—		
旧 A s 含有量 %		—	—	4.96	—	—	—	—		
旧 A s 針入度		—	—	27	—	—	—	—		
圧裂係数		—	—	1.21	—	—	—	—		

# 使用アスファルト性状表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

## <使用するアスファルトの性状>

種類・品名		S t A s ( 6 0 - 8 0 )	
項	目	試 験 値	規 格 値
針入度 (25℃)	(1/10mm)	64	60~80
軟化点	(℃)	49.0	44.0~52.0
伸度 (15℃)	(cm)	140+	100以上
トルエン可溶分	(%)	99.96	99.00以上
引火点	(℃)	374.0	260.0以上
薄膜加熱質量変化率	(%)	0.08	0.60以下
薄膜加熱針入度残留率	(%)	73.4	55.0以上
蒸発後の針入度比	(%)	102.0	110.0以下
密度 (15℃)	(g/cm <sup>3</sup> )	1.040	1.000以上
マーシャル最適混合温度範囲	(℃)	151~156	---
マーシャル最適締固め温度範囲	(℃)	139~144	---

# アスファルト混合物の配合設計

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月14日

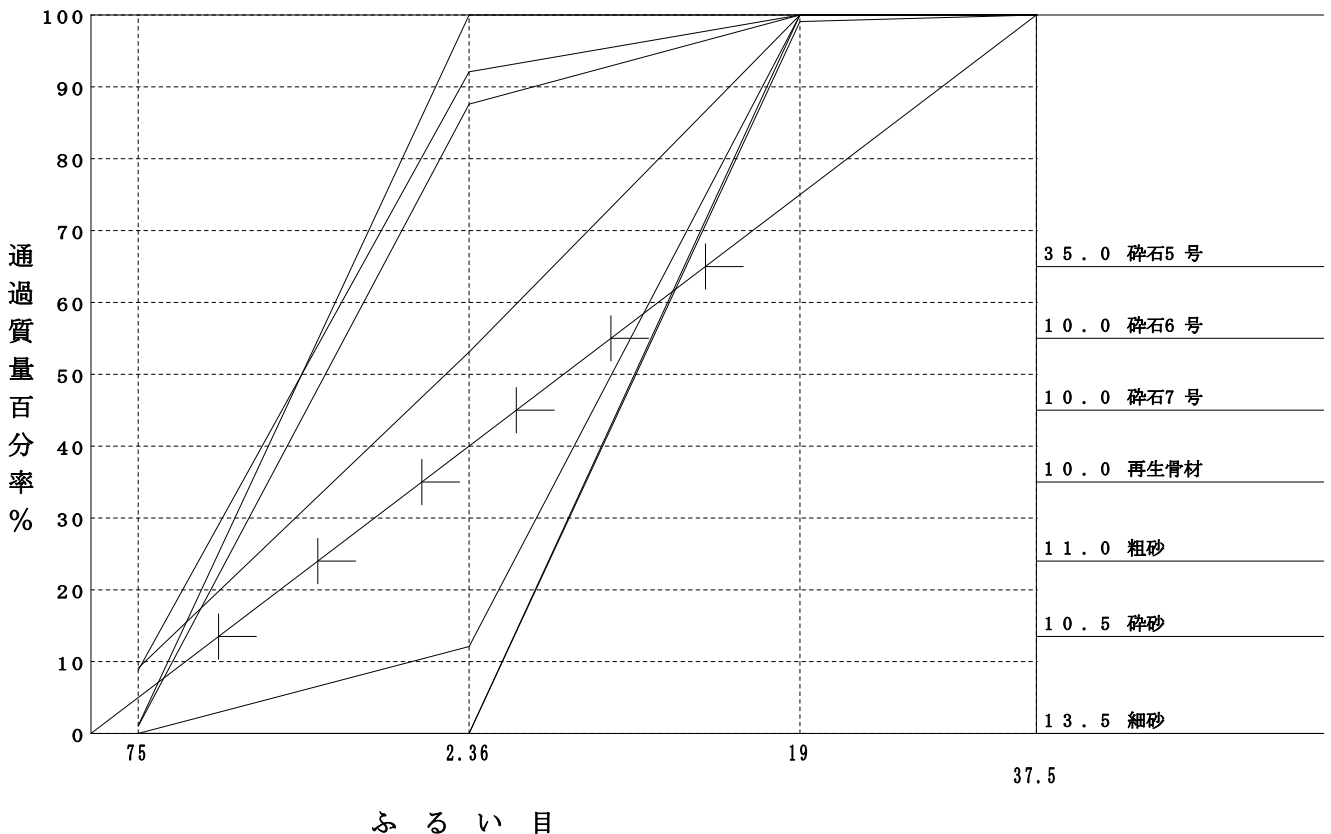
混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

## 1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

フルイ目	使用予定骨材の通過質量百分率 (%)							目標粒度
	碎石5号	碎石6号	再生骨材	碎石7号	砕砂	粗砂	細砂	
53 mm								
37.5								100.0
31.5								
26.5	100.0							
19	99.1	100.0						75.0
13.2	13.9	98.8	100.0	100.0		100.0		
9.5								
4.75		6.5	73.2	94.3	100.0	99.2		
2.36			53.1	12.1	92.1	87.6	100.0	40.0
1.18								
600 μm			32.4		37.5	31.5	98.9	
300			22.3		20.4	12.2	70.4	
150			12.1		12.0	3.5	4.1	
75			9.1		8.8	1.0	1.1	5.0

## 2. 使用予定骨材の配合比決定図









# 骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

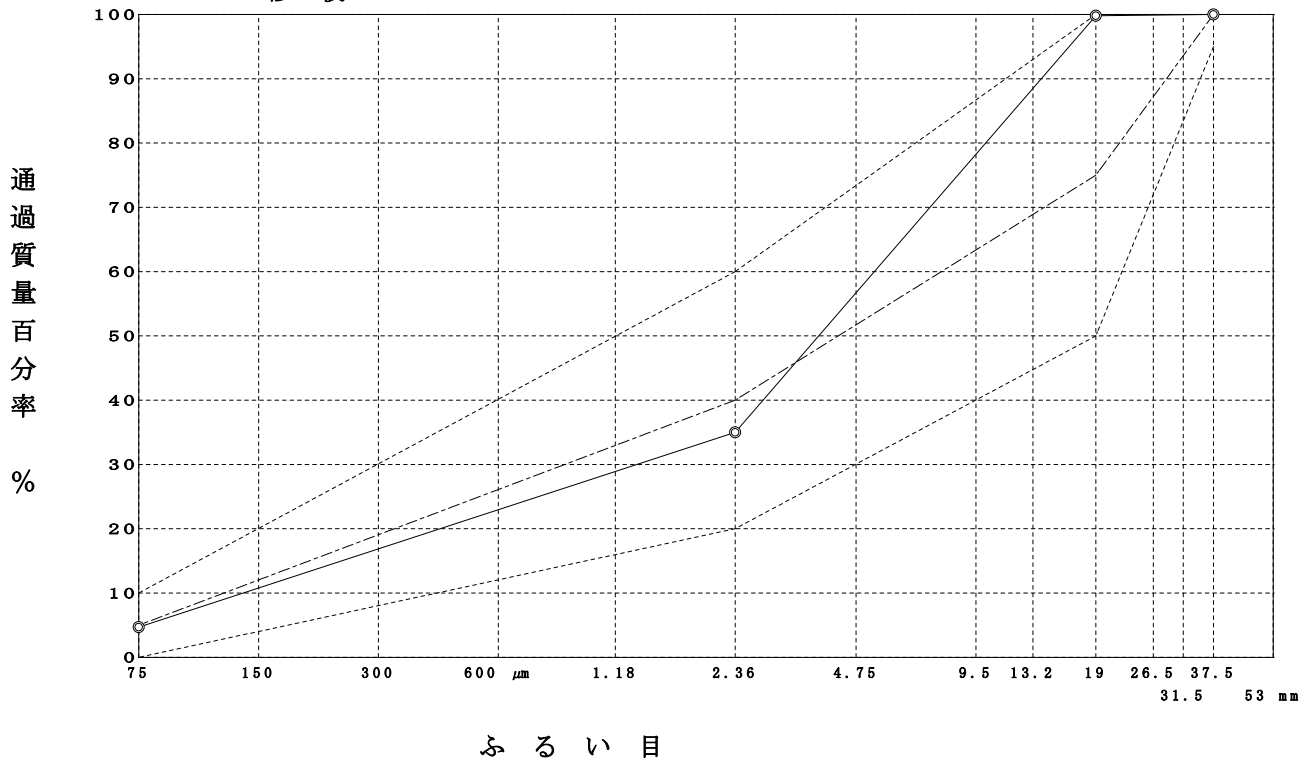
試験者 大西 康夫

## 5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5			100.0	95 ~ 100
31.5				
26.5	100.0	100.0		
19	99.7	99.8	75.0	50 ~ 100
13.2	69.8	83.0		
9.5				
4.75	52.3	52.0		
2.36	39.3	35.0	40.0	20 ~ 60
1.18				
600 μm	24.0	20.8		
300	15.1	13.8		
150	3.5	6.4		
75	2.0	4.7	5.0	0 ~ 10

## 6. 粒径加積曲線図

- ..... 粒度範囲
- 目標粒度
- 修正後



# 設計圧裂係数への調整 (添加剤量)

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

試験項目	材料名	再生骨材			規格値
通過質量百分率 %	53 mm				
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2	100.0			
	9.5				
	4.75	73.2			
	2.36	53.1			
	1.18				
	600 μm	32.4			
	300	22.3			
	150	12.1			
75	9.1				
旧アスファルト含有率 %		4.96			3.8 以上
圧裂係数 MPa/mm		1.21			1.70 以下
微粒分量試験による損失量 %		1.8			5 以下
最大密度		2.514			

## 再生添加剤の性状

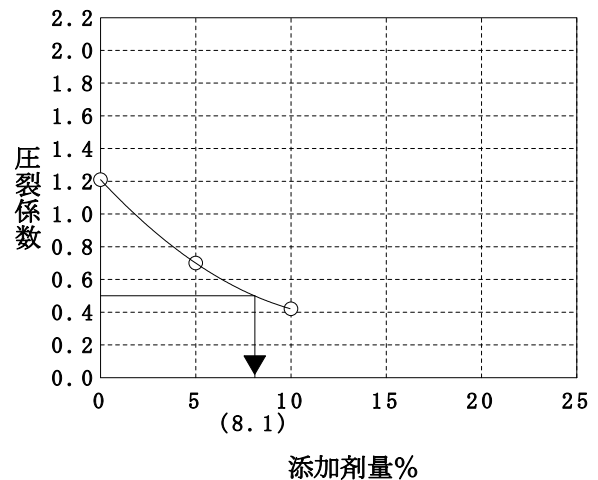
項 目	試験値	標準的性状
動 粘 度 (60℃) mm <sup>2</sup> /s	83.79	80~1000
引 火 点 ℃	260	250以上
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	1.03	2以下
薄膜加熱質量変化率 %	-0.91	±3%以内
密 度 (15℃) g/cm <sup>3</sup>	0.924	

## <添加剤量と圧裂係数の関係>

添加剤量	0.0	5.0	10.0
圧裂係数	1.21	0.70	0.42

設計圧裂係数 0.50 (規格値 0.40 ~ 0.60)

## 設計圧裂係数への調整



## <設計圧裂係数への調整結果>

設計添加剤量	8.1
設計添加剤量 (対混合物)	0.21

# 理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

骨材の種類	A 骨材のみ	B (旧アスファルト含む)						
砕石5号	19.5	19.50						
砕石6号	15.9	15.90						
再生骨材	49.3	51.87						
砕石7号	6.6	6.60						
砕砂	2.0	2.00						
粗砂	4.0	4.00						
細砂	2.7	2.70						
計	100.0	102.57						
設計針入度 1/10mm								
旧アスファルト量 (外割%)		2.57						
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		8.10						
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.21						
再生アスファルト量 (%)	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0			4.0
再生アスファルト量 (外割%)	3.09	3.63	4.17	4.71	5.26			4.17
旧アスファルト量 (外割%)	2.57	2.57	2.57	2.57	2.57			2.57
再生用添加剤量 (外割%)	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21			0.21
新アスファルト量 (外割%)	0.31	0.85	1.39	1.93	2.48			1.39

# 理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

① 骨材の種類	② 配合率(%)	③ 骨材の密度 (g/cm <sup>3</sup> )			④ 計算に用いる密度	⑤ ②/④
		表	乾	かさ 見掛		
砕石5号	19.50	2.692	2.675	2.720	2.720	7.169
砕石6号	15.90	2.688	2.669	2.721	2.721	5.843
再生骨材	51.87				2.514	20.632
砕石7号	6.60	2.676	2.651	2.718	2.718	2.428
砕砂	2.00	2.647	2.602	2.724	2.724	0.734
粗砂	4.00	2.592	2.556	2.652	2.652	1.508
細砂	2.70	2.585	2.535	2.668	2.668	1.012
R D E X	0.21				0.924	0.227
Σ②=	102.78				Σ⑤=	39.553

⑥ アスファルト量 (%)	⑦ アスファルトの密度	⑧ ⑥/⑦	⑨ Σ⑤	⑩ ⑧+⑨	⑪ 理論最大密度 (Σ②+⑥)/⑩	
0.31	1.040	0.298	39.553	39.851	2.587	
0.85		0.817	39.553	40.370	2.567	
1.39		1.337	39.553	40.890	2.548	
1.93		1.856	39.553	41.409	2.529	
2.48		2.385	39.553	41.938	2.510	
1.39		1.337	39.553	40.890	2.548	

# マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験

目 的 配 合 設 計 ( 室 内 )

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

アスファルトの種類 再生アスファルト(60-80) アスファルトの密度(A) 1.040 アスファルトの温度 160 ℃ 骨材の温度 210 ℃

突固め温度 142 ℃ 突固め回数 50 回 力計の係数(B) 0.1187

供試体条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	安定フロー値 (kN/m)	
		アスファルト量%	供試体寸法					空中質量 (g)	水中質量 (g)	表乾質量 (g)	容積 (cm <sup>3</sup> )	密度		アスファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	安定度			フロー値 (1/100 cm)
			厚さ (cm)									かさ (g/cm <sup>3</sup> )	理論 (g/cm <sup>3</sup> )					読み	安定度 (kN)		
			1	2	3	4	平均														
											⑬ + ⑭		⑯ / ⑰ × 100								
標準	1	3.0					1203.6	689.5	1209.6	520.1	2.314							52	6.17	25	
	2						1202.2	689.9	1207.9	518.0	2.321							50	5.94	24	
	3						1204.3	691.5	1210.6	519.1	2.320							54	6.41	20	
	平均											2.318	2.587	6.7	10.4	17.1	39.2		6.17	23	2683
標準	4	3.5					1207.8	698.9	1212.6	513.7	2.351							56	6.65	26	
	5						1208.7	695.0	1214.0	519.0	2.329							58	6.88	24	
	6						1209.4	698.0	1214.2	516.2	2.343							58	6.88	25	
	平均											2.341	2.567	7.9	8.8	16.7	47.3		6.80	25	2720
標準	7	4.0					1214.4	701.2	1218.6	517.4	2.347							58	6.88	29	
	8						1213.9	705.9	1218.3	512.4	2.369							62	7.36	25	
	9						1212.6	701.6	1216.5	514.9	2.355							56	6.65	30	
	平均											2.357	2.548	9.1	7.5	16.6	54.8		6.96	28	2486
標準	10	4.5					1221.8	708.7	1225.5	516.8	2.364							55	6.53	32	
	11						1219.0	703.4	1222.7	519.3	2.347							54	6.41	33	
	12						1222.3	709.4	1225.8	516.4	2.367							57	6.77	33	
	平均											2.359	2.529	10.2	6.7	16.9	60.4		6.57	33	1991
標準	13	5.0					1226.6	708.3	1228.9	520.6	2.356							51	6.05	39	
	14						1227.4	705.6	1229.9	524.3	2.341							45	5.34	40	
	15						1227.0	709.4	1229.5	520.1	2.359							47	5.58	40	
	平均											2.352	2.510	11.3	6.3	17.6	64.2		5.66	40	1415

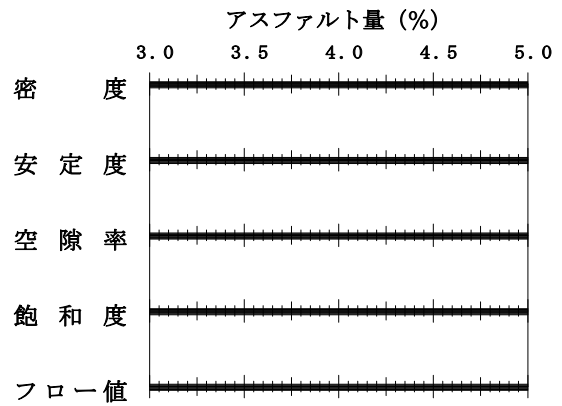
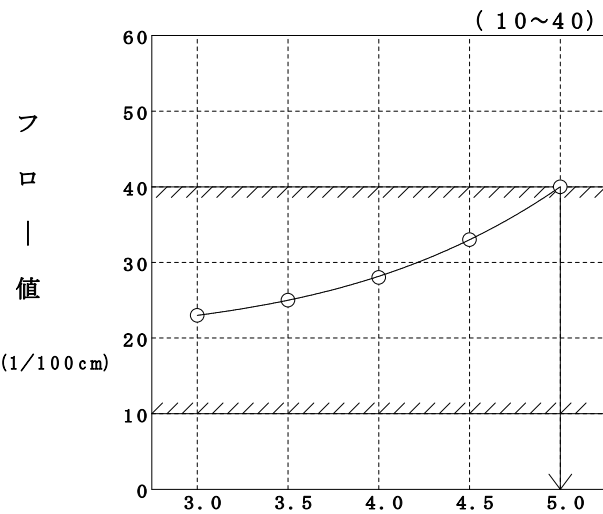
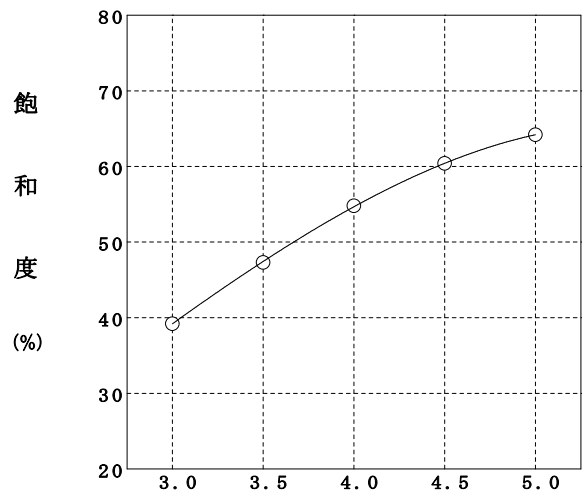
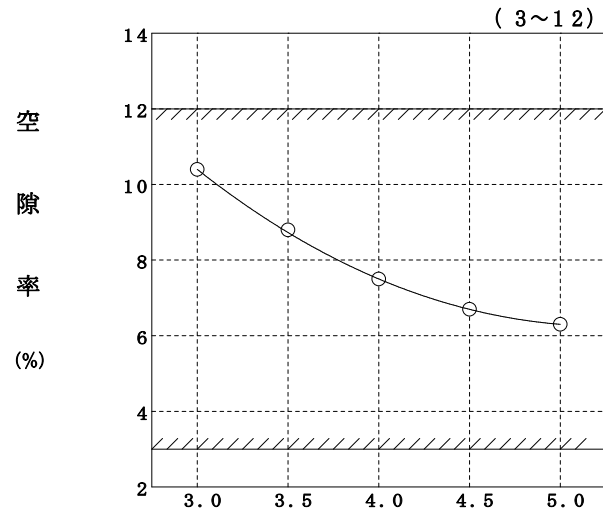
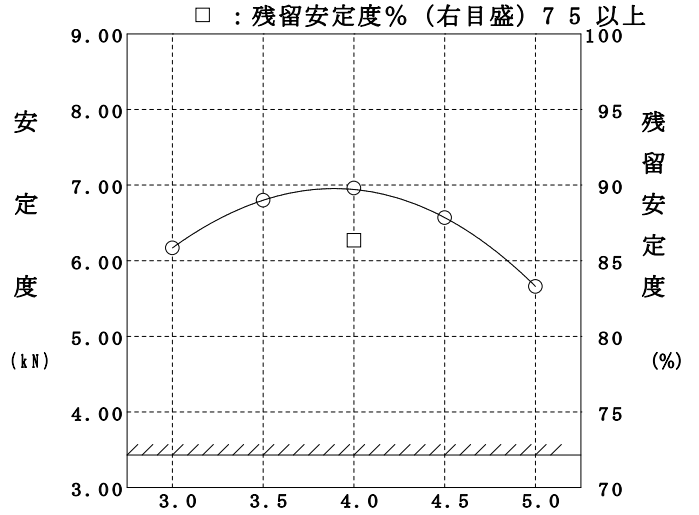
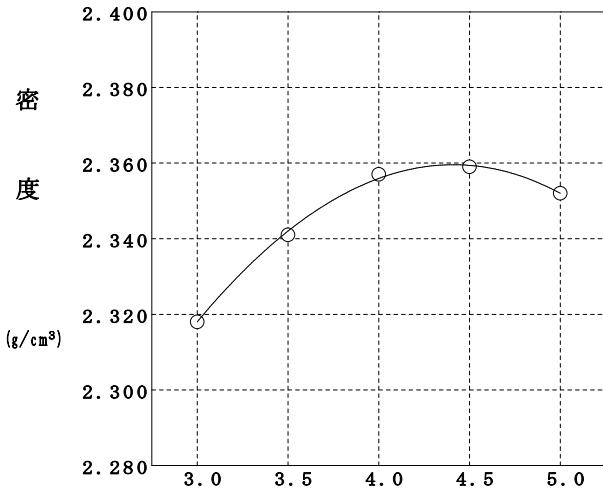
# 設計アスファルト量の決定

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫



共通範囲 3.00 ~ 5.00 (%)

設計アスファルト量 4.0 (%)



# ホットビンの合成粒度

目的 配合設計 (現場)

試験年月日 2024年 2月14日

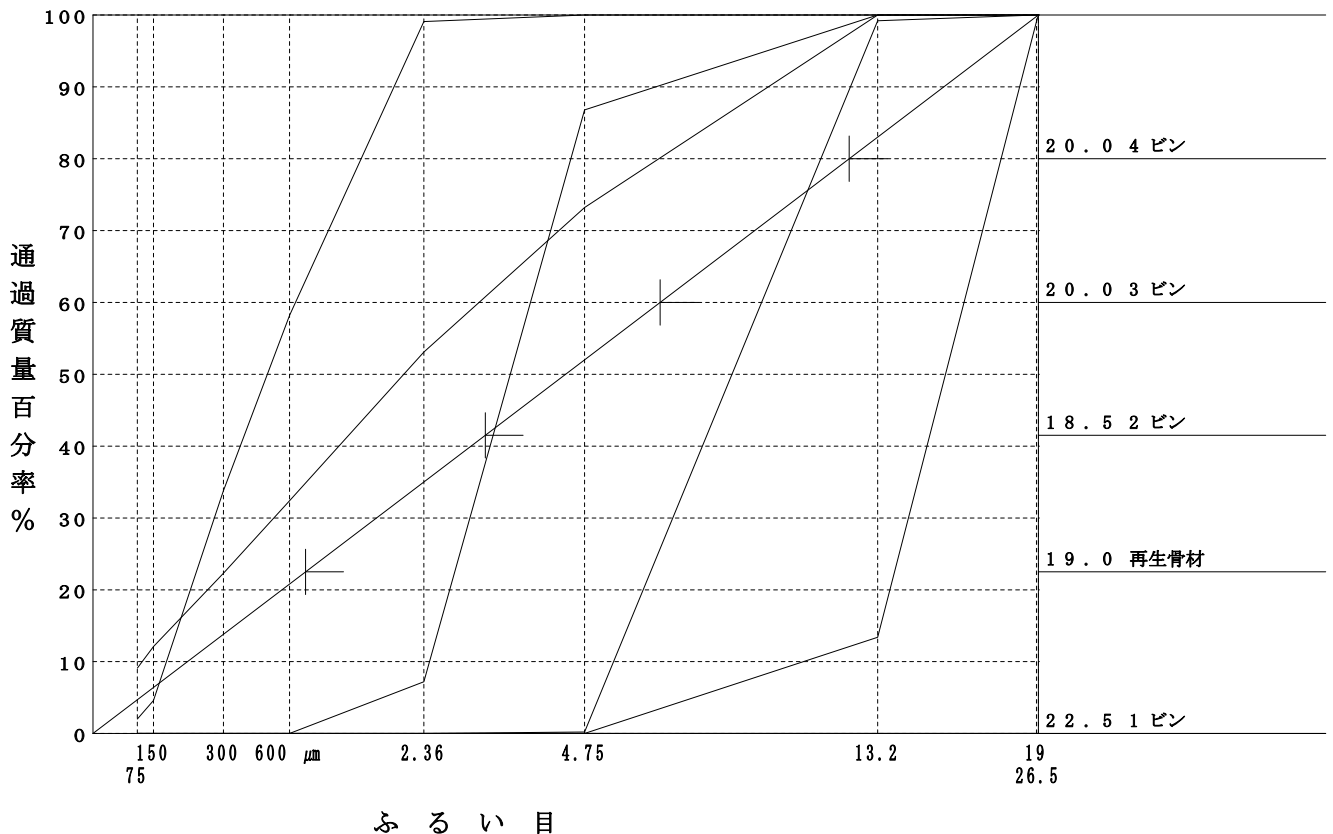
混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

## 1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

フルイ目	使用予定骨材の通過質量百分率 (%)						設計粒度
	1ピン	2ピン	3ピン	4ピン	再生骨材		
53 mm							
37.5							
31.5							
26.5				100.0			100.0
19			100.0	99.1			99.8
13.2		100.0	99.2	13.4	100.0		83.0
9.5							
4.75	100.0	86.8	0.2		73.2		52.0
2.36	99.1	7.2			53.1		35.0
1.18							
600 μm	58.2				32.4		20.8
300	33.8				22.3		13.8
150	4.6				12.1		6.4
75	2.0				9.1		4.7

## 2. 使用予定骨材の配合比決定図









# ホットビンの粒径加積曲線図

目的 配合設計 (現場)

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

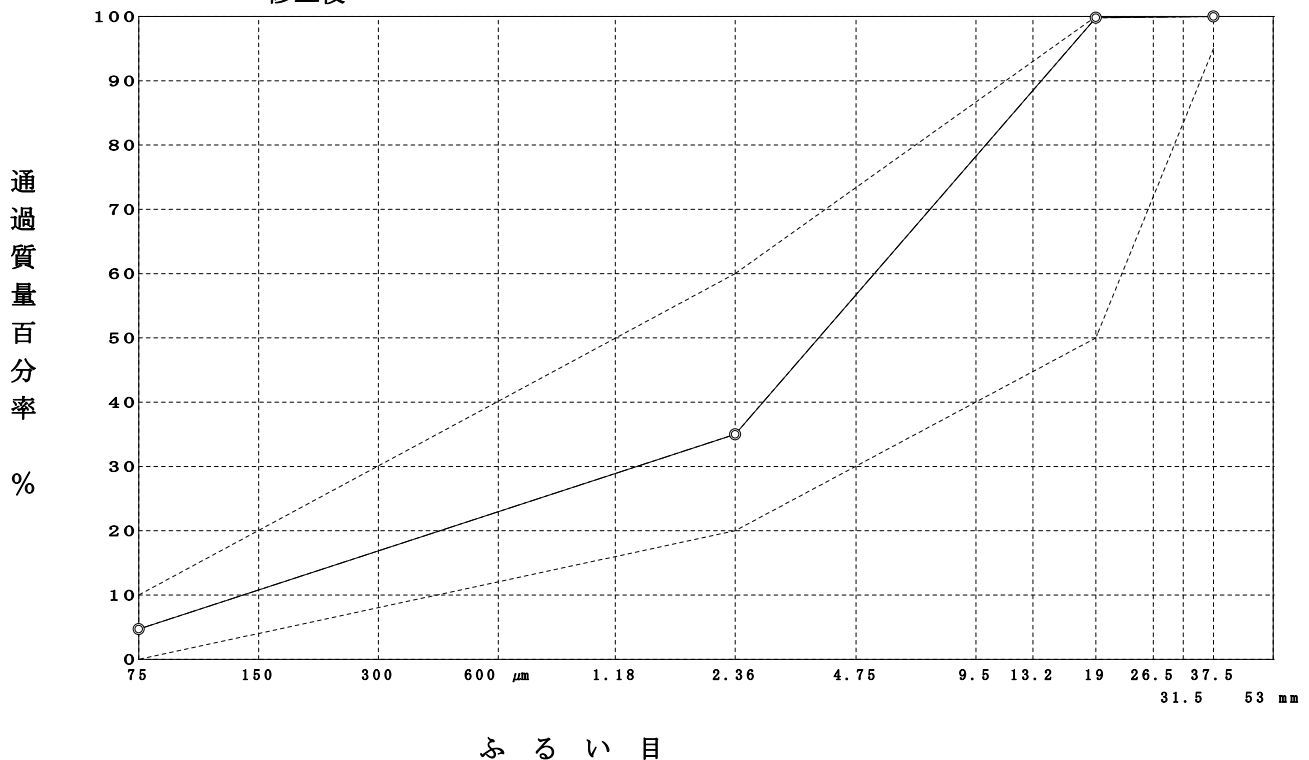
試験者 大西 康夫

## 5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5				95 ~ 100
31.5				
26.5	100.0	100.0	100.0	
19	99.8	99.8	99.8	50 ~ 100
13.2	82.5	83.0	83.0	
9.5				
4.75	52.5	52.0	52.0	
2.36	33.7	35.0	35.0	20 ~ 60
1.18				
600 μm	19.3	20.8	20.8	
300	11.8	13.8	13.8	
150	3.3	6.4	6.4	
75	2.2	4.7	4.7	0 ~ 10

## 6. 粒径加積曲線図

..... 粒度範囲  
 - - - - 目標粒度  
 ——— 修正後



# 理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

骨材の種類	A 骨材のみ	B (旧アスファルト含む)
砕石5号	19.5	19.50
砕石6号	15.9	15.90
再生骨材	49.3	51.87
砕石7号	6.6	6.60
砕砂	2.0	2.00
粗砂	4.0	4.00
細砂	2.7	2.70
計	100.0	102.57
設計針入度 1/10mm		
旧アスファルト量 (外割%)		2.57
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		8.10
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.21
再生アスファルト量 (%)	4.0	
再生アスファルト量 (外割%)	4.17	
旧アスファルト量 (外割%)	2.57	
再生用添加剤量 (外割%)	0.21	
新アスファルト量 (外割%)	1.39	

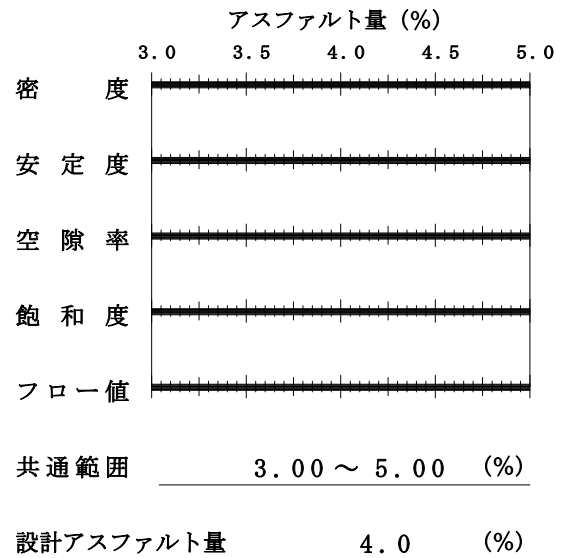
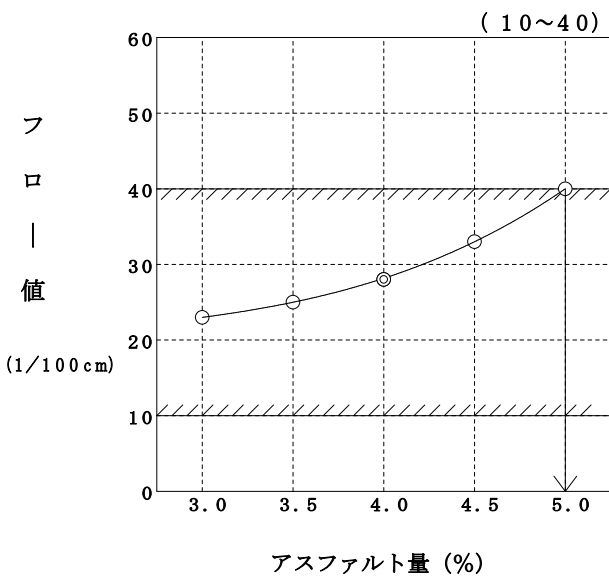
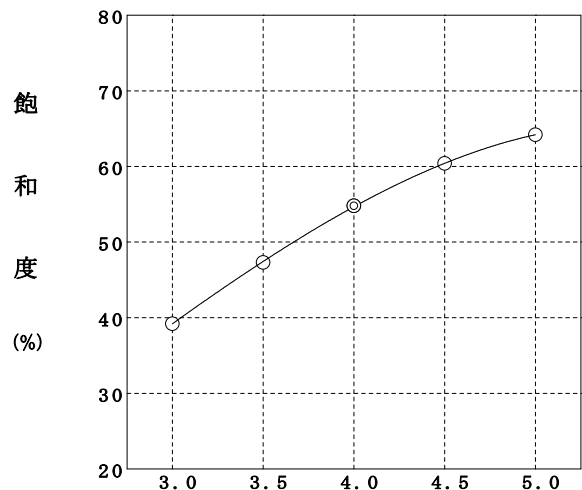
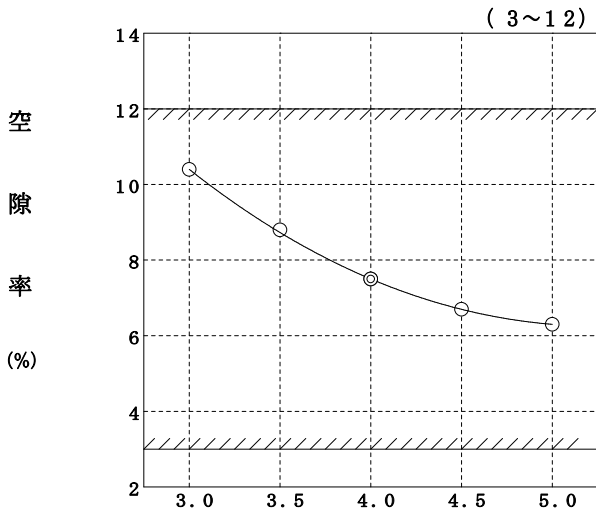
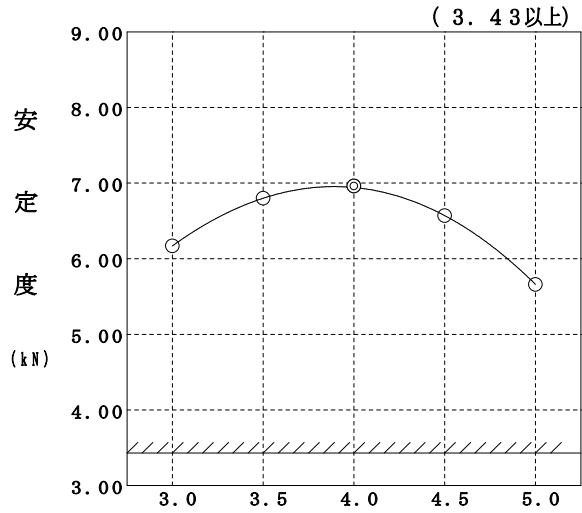
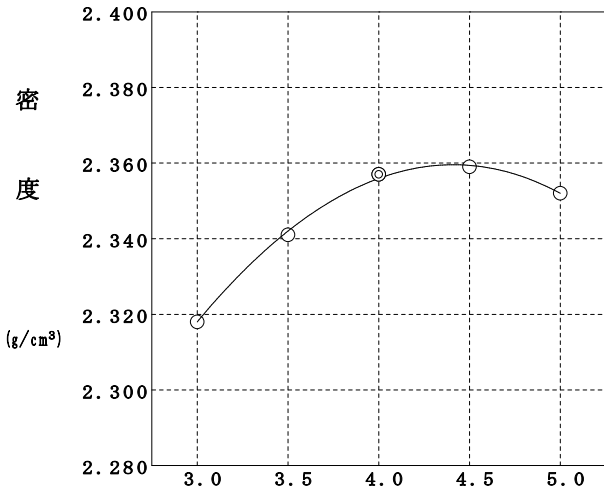




# マーシャル安定度試験

目的 配合設計 ( 現場 )  
 混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験年月日 2024年 2月14日  
 試験者 大西 康夫



# 現場配合の決定

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月14日

混合物の種類 再生アスファルト安定処理

試験者 大西 康夫

1バッチ 1000 kg

		骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量(kg)	骨材累加質量(kg)		
1	ビ	ン	8.3	8.30	7.97	80	80	
2	ビ	ン	8.7	8.70	8.35	84	164	
3	ビ	ン	14.2	14.20	13.63	136	300	
4	ビ	ン	19.5	19.50	18.73	187	487	
再	生	骨	材	49.3	51.87	49.79	500	500
旧	ア	ス	フ		( 2.57)	( 2.47)		
再	生	用	添		0.21	0.20		
新	ア	ス	フ		1.39	1.33		
合	計		100.0	104.17	100.00	1000	1000	

※添加剤はドライヤ内添加のため  
再生材の計量値に含まれます。

- (1) 混合温度・・・・・・・・混合温度は185℃を超えない範囲でアスファルトの動粘度  
160～200cSt（セイボルトフロー秒75-95）  
のときの温度範囲から選び 160℃とする。
  
- (2) 再生骨材加熱温度・・・・・・・・加熱温度による旧アスファルトの劣化を防ぐ目的に  
より 140℃とする。
  
- (3) 骨材加熱温度・・・・・・・・混合温度より 50℃高くして 210℃とする。
  
- (4) アスファルト加熱温度・・・・・・・・混合温度と同じ 160℃とする。
  
- (5) 初期転圧温度・・・・・・・・転圧温度は再生アスファルトの性状により 130 ± 10℃とする。